

## 四旬節第2主日の説教

金 大烈 神父 2010年2月28日(日)

### 《祈りという鏡》

おはようございます。

ある画家がいました。その画家は最後の晩餐の絵を描こうと思い12人のモデルを探しました。11人までは探せましたが、どうしても一人ユダにふさわしいモデルに合う人が見つかりませんでした。そしてある日、橋の下にいたみずぼらしい身なりで、酔っているように見える男の人が画家の目にとまりました。その画家はこの人に「あなたに絵のモデルになってほしいのですが、お願いします」と話しました。その人は、「金になれば、なんでもします」と答えました。そしてその人は自分の話をしきりに、くどくどと呟きました。その話を聞いているうちに画家がある事を思い出し、驚きました。それはその画家が、数年前にイエス様の顔を描いた時のモデルだった人であることを気がついたからです。その人は、数年の内にイエス様の顔からユダの顔に変わってしまっていたのです。その青年は酔いながら、この数年の内に辛い時間を過ごして来た事を何度も話したのです。

この物語はやはり人間は環境的にも影響を受けるですが、どのような心を持って生きて行くかによって肉体も変わってしまうことです。

皆様、鏡の前でいるとどのような気持ちになりますか？ いろいろな気持ちになりますね。20年位前に戻れたらいいのにとか、以前は満足な顔だったのにとか、いろいろな思いがするんでしょう。男性でも女性でも鏡の前で時間を使い、むなしい気持ちになる事があると思います。皆様は一日にどの位、鏡を見ているんですか。私も何分間は鏡の前にいます。自分も嫌な気持ちになりながら鏡を見ている。時は流れます。

さあ、顔とか外面的な物は鏡を見たらその状態をよく分かります。そうすると、内面的な物(心の状態・靈魂の調子)をみる事はどのようにすれば見られるでしょうか。内面的な物を見る鏡があります。中をはっきり見る事の出来る鏡があります。皆様、老いることは仕方ない事であることを認めましょう。しかし絶対あきらめては行けない事があります。それは心の働きです。顔を見る鏡が必要なように、この心の働き、心の状態がどのようになっているかがわかる為に中を見る鏡も必要です。それが今日の福音(ルカ9, 28-36)で表わされています。

イエス様の顔が変わりましたね、白く輝いたと表現されています。何をしている時にそのようにかわりましたか。祈られている時でした。それは私達が内面を見ようとする時のただ唯一の方法は祈りであることを示しているのではないかと思います。祈る事しか無いと思います。今日イエス様が皆様に模範を見せたように、私達も祈りという鏡を沢山見る様な気持ちになりましょう。

四旬節に入ってから聖堂に入って見ますと一人で十字架の道行や、聖櫃の前で静かに黙想している信者さんの姿を見られます。本当に美しい姿です。その姿を見ているだけで癒されます。はっきり申し上げますと、私たちの人生に祈る時間はそんなに残っていません。ただ思い出す時だけでなく、意

識的に祈りの時間を作っていただきたいのです。祈りとはなんでしょうか？ 祈りは願う事ではなく、聞く事です。耳を傾ける事が祈りです。耳を傾ければイエス様は教えてください。「あなたの心はこういう形だ。あなたの霊魂はここまで来ている。」とはっきり教えてください。祈られる事は恵みです。少なくとも一日 30 分でも静かに神様と一対一で対面する時間を作れば皆様の人生が美しくなります。

ありがとうございました。